

ランピースキン病の対策について

令和6年12月11日
福岡県畜産課

11月6日に県内で国内初の発生が確認されたランピースキン病は、12月11日現在、県内で18例が確認されています。これ以上の発生を防止するため、飼養者および関係者の方は、以下について実施するようお願いします。

症状

以下のような症状が見られたら・・・

症状のある牛を隔離し、
すぐに診療獣医師または家畜保健衛生所へご相談を！

皮膚の結節、発熱、泌乳量の低下など



農場への侵入防止対策

農場へウイルスを侵入させないためには・・・

以下の対策をお願いします！

1. 牛の移動前には農場内全頭健康観察を徹底しましょう！

感染牛の移動は感染拡大の原因となります。

2. 吸血昆虫対策を徹底しましょう！

特に、1日に複数の農場を訪問する方は、他の農場へ吸血昆虫を運ばないように、車両に殺虫剤を準備するなどの対策をお願いします。

3. 農場外で使用した器具等を持ち込む場合は消毒を徹底しましょう！

吸血昆虫対策

発生農場では、サシバエが多いほど発症頭数が多い傾向にあります。サシバエの重点的な対策をお願いします。

サシバエの特徴

- ①大きさは見た目はイエバエに類似
- ②4～12月に発生（15℃以上で活動）
- ③幼虫～蛹まではたい肥中で過ごす
- ④牛舎の壁や周辺の草むらで休息する

成虫対策：ピレスロイド系薬剤（200～400倍希釈）を動力噴霧器等を使用して畜舎の外壁や牛舎から5m内の草むらを中心に散布

幼虫・蛹対策：こまめな堆肥処理（1週間以内）を実施し、成虫への発育を防ぎましょう。※（幼虫や蛹は堆肥の中にいるため、殺虫剤が届きません。）

※殺虫剤が練りこまれたネットの設置や牛舎周辺の草刈りなどの対策も有効です。

消毒手順と消毒薬

消毒手順：水洗等により汚れを除去した後、消毒をしてください。汚れが残った状態では、消毒薬の効果が十分に発揮できないことがあります。また洗浄後の乾燥も消毒効果を高めます。

（参考）消毒手順例

1. 水洗

・糞便や泥などの有機物が残っていると消毒の効果が低下します。

2. 乾燥

・水分が残っていると消毒効果が低下します。（水分が残っていると消毒薬が小さいな凹みに入り込めない）

3. 消毒

・消毒薬は用法・用量を守って使いましょう。

消毒薬：ランピースキン病ウイルスは逆性石けんなど一般的に使用する多くの消毒薬で効果があります。

（参考）消毒薬の種類と使用対象

種類	商品名	ランピースキン病ウイルスに対する消毒効果	一般的な使用対象					注意点
			畜舎	器具	踏み込み槽	手指	車両	
逆性石けん	クリアキル、アストップ、パコマ等	あり	○	○	○	○	○	有機物で効力減少
塩素系	アンテックビルコンS、クレンテ等	あり	○	—	○	○	—	金属腐食性あり
ヨード剤	ヨードホール等	あり	○	—	—	○	—	金属腐食性あり
アルコール		あり	—	○	—	○	—	
消石灰		あり	○	—	○	—	—	

○：一般的な使用対象として考えられるもの
—：使用対象としては適さないと考えられるもの